

**【事例】自主的な公会計改革スタディグループ（千葉県習志野市）****背景・目的**

- 新公会計制度についての理解を深めるための場として、定期的な複式簿記の勉強会を平成22年度及び平成23年度に実施。
- 基礎的な企業会計的手法について、一朝一夕に身につくものでないとの認識のもと、勤務時間外に継続的に実施する勉強会を開催した。

**事例概要**

- 主な実績  
実施回数：25回 参加者（延）305名  
会報の発行やメールでの情報提供
- 内容  
「簿記3級講座」  
「大阪府（東京都）の取り組みについて」  
「財政支援ツールについて」  
「バランスシート探検隊事業について」



※バランスシート探検隊事業は、この自主的勉強会から発案されたもので、その後、市の事業として市民（学生）と千葉大学と協働で実施している財務書類を映像などを取り入れ、わかりやすく説明し、市民の理解を深めることを目的とする。

平成22年9月9日（木）17時30分～19時30分

**効果等**

- 勉強会を通じて多くの職員が公会計改革の必要性を理解した。
- 簿記の検定試験に合格する職員がでるなど、公会計改革をサポートする職員が誕生した。

# セグメント分析

## 【事例】固定資産台帳と橋梁台帳（千葉県習志野市）

### 背景・目的

○橋梁の老朽化の現状とその対策としての橋梁長寿命化修繕計画について、固定資産台帳と橋梁台帳に着目し検証した。

### 事例概要

バランスシート探検隊事業として位置づけ、千葉大学の協力を得て実施。この成果については、ケーブルテレビで放映するとともに、財務報告書に、マンガの手法も取り入れて、掲載した。

#### ③ 鷺沼中央跨線橋

橋梁番号 | 1 | 所在 | 鷺沼台3丁目 | 路線名 | 市道00-011号線

橋梁台帳より		平成24年度 固定資産台帳より							単位：円	
建設主体	他	公有財産No.	取得年度	稼働年数	耐用年数	当期取得額	減価償却累計額	期末簿価	老朽化比率	
延長(m)	214.00					960,260,800	621,672,831	338,587,969	64.7%	
幅員(m)	8.00	橋梁00022-01	昭和48年度	39	60	64,501,500	4,282,896	60,218,604	6.6%	
面積(m <sup>2</sup> )	1,712.00	橋梁00022-02	平成20年度	4	60	49,530,600	2,466,621	47,063,979	5.0%	
建設後年数	38.0	橋梁00022-03	平成21年度	3	60	1,162,200	57,876	1,104,324	5.0%	
建設年次	昭和48年	橋梁00022-04	平成21年度	3	60	58,800,000	976,080	57,823,920	1.7%	
主桁構造	鋼構造+C	橋梁11085001	平成23年度	1	60					
耐用年数	75	建設費勘定12080501	平成24年度	0	0	(2,100,000)	0	(2,100,000)	0.0%	
耐用年数	36	建設費勘定12080502	平成24年度	0	0	(493,500)	0	(493,500)	0.0%	
路線・跨道	在来線	建設費勘定12080503	平成24年度	0	0	(280,350)	0	(280,350)	0.0%	
備考		建設費勘定12080504	平成24年度	0	0	(151,330,930)	0	(151,330,930)	0.0%	
		合計				1,134,255,100	629,456,304	504,798,796	55.5%	

#### 平成24年度 バランスシート

資産 (659,003,576円)	負債 (137,240,017円)
純資産 (521,763,559円)	

#### 平成0年度以降工事・補修費決算額

年度	決算額(円)
平成9年度	60,270,000
平成12年度	22,470,000
平成18年度	9,450,000
平成20年度	64,996,050
平成21年度	51,186,300
平成22年度	600,000
平成23年度	61,896,343
平成24年度	158,236,780
合計	429,105,473



平成26年1月17日の現地視察



習志野市の財務報告書  
～平成26年3月発行～より

### 効果等

○橋梁台帳と固定資産台帳では、耐用年数の考え方が違う部分もあるが、橋梁の維持管理には、固定資産台帳の情報を活用することが必要不可欠である。

# 資産の適切な管理

## 【事例】習志野市公共施設再生計画（データ編）との連携について（千葉県習志野市）

### 背景・目的

○公共施設の再生計画を策定するために固定資産台帳のデータ及び公会計のコスト情報を盛り込んだ事例

### 事例概要

番号	施設名	大久保小学校				
建物所在地	藤崎6-9-28	所管課	教育総務課			
建物種別	小学校	14コミュニティ	藤崎			
複合施設		再調達価額	811,290,000 円			
隣接施設	大久保児童会・大久保第二児童会	土地面積	14,992.00 m <sup>2</sup>			
		中学校区	第六中学校区			
		用途地域	第一種中高層住居専用			
建物情報						
棟名	延床面積	築年度	年度・耐用年度			
東校舎	4,071 m <sup>2</sup>	1965	10 20 30 40 2015			
西校舎	1,913 m <sup>2</sup>	1970	10 20 30 40 2020			
体育館	875 m <sup>2</sup>	1959	10 20 30 1997 40 50 0.75			
付属棟	52 m <sup>2</sup>	1971	10 20 30 40 2021			
総延床面積	6,911 m <sup>2</sup>	凡例・耐用年数	■…鉄筋コンクリート造(50年)、■…鉄骨造(38年)、■…軽量鉄骨造・木造(22年)			
バリアフリー						
入口スロープ	施設内段差なし	手すり	点字ブロック			
			エレベーター			
			オストメイト・車いす対応トイレ			
			避難所			
			AED設置			
			○			
			○			
コスト情報						
種別	決算額	床面積㎡あたり	市民1人あたり	児童1人あたり	構成比	児童数(H23)
事業費	80,165,052 円	11,600 円/㎡	498 円/人	77,982 円/人		1,028人
減価償却費	39,113,070 円	5,660 円/㎡	243 円/人	38,048 円/人		基準人口
人件費	51,615,312 円	7,469 円/㎡	321 円/人	50,209 円/人		(平成23年3月)
合計	170,893,434 円	24,728 円/㎡	1,062 円/人	166,239 円/人		160,991人

- **事業費**…複式簿記の仕訳後の科目で、所管課で予算措置した費用(直接事業費)と、所管課で予算措置がない場合であっても該当施設のコストと考えられる費用(間接事業費)を按分して計上しています。
- **減価償却費**…固定資産の中で、土地などの使用により価値の減少しないものを除いて、使用年数に伴って減少する資産の価値の減少分を計算したものを、減価償却費と言います。公会計の固定資産台帳に計上してある減価償却費を計上しています。
- **人件費**…職員、再任用職員、臨時的任用職員の各平均額、及び報償費、賃金、退職給付費用を計上しています。発生主義に基づく退職給付費用を算定しています。
- **決算額**…1年間にかかったコストを決算額として表示しています。

### 効果等

○ 公共施設再生計画(データ編)と公会計情報から得られるコスト情報を連携させることにより、資産の適切な管理、施設統廃合における運営費削減等の見える化、予防保全等に役立てることが可能となる。今後、公会計に対応した固定資産台帳と習志野市公共施設再生計画(データ編)は施設番号共用化などにより連携を強め、施設経営の判断指標とすることが今後の課題である。

# 情報開示

## 【事例】公認会計士による決算報告会（千葉県習志野市）

### 背景・目的

- 新公会計制度により作成された財務書類について、公認会計士から市民にその内容を説明する企画である。
- 市長は、積極的に市民に情報を開示する姿勢をとっており、「財務報告会」に出席し、その必要性を市民に直接、説明している。
- 市民に情報開示する手法としては必要不可欠であるとの考えで実施している。

### 事例概要

平成22年度決算報告会  
平成23年11月1日（火） 参加者68名

平成23年度決算報告会  
平成25年3月30日（土） 参加者20名

平成24年度決算報告会  
平成26年3月29日（土） 参加者29名

この内容の資料等はホームページで公開  
平成23年度決算分より You Tubeで視聴可能



習志野市長挨拶

報告内容を熱心に聴く市民



公認会計士による説明

### 習志野市の財務報告書

～平成26年3月発行～

Annual Financial Report



### 効果等

- 市民からは「非常に勉強になった」「また実施してほしい」「会計がわかる会計士がチェックし、説明すべきだと思う」「報告会は必要だと思う」などの感想が寄せられ、好評である。今後はより多くの市民に参加してもらう工夫が必要である。

# その他

## 【事例】習志野市公共施設等再生整備基金条例（千葉県習志野市）

### 背景・目的

○新公会計制度による減価償却費の考え方を導入し、将来の公共施設更新コストを内部留保しておくことが必要である。そのため、一定のルールのもと、積立てを行う。

### 事例概要

○習志野市財務報告書(2008)平成22年3月より「減価償却費は、理屈上、基金などの形で貯金しておくべき「資金」相当額を表しているとも考えられます。

公共施設は、途中、修繕等を加えなければ、やがて、設備は寿命を迎え、建替えや除却を求められる状態に至ります。

そのときに、毎年の減価償却相当額を実際に毎年の税込等から、現金で積み立てておかなければ、当然ながら、建て替えるお金はありません。」

上記内容に基づき「減価償却の考え方の導入及び、基金の創設と積立のルール化」の提言(習志野市公共施設再生計画策定に対する提言書:平成23年3月24日)がなされ、それが基本方針(習志野市公共施設再生基本方針:平成24年5月)に引き継がれ、基金条例が成立した。この条例により従前の「習志野市都市施設整備基金条例」及び「習志野市庁舎建設基金条例」は廃止された。

○習志野市公共施設等再生整備基金条例(抜粋)  
平成25年12月25日 条例第27号

(設置)

第1条 公共施設等の改築、改修その他整備(以下「再生整備」という。)に要する経費の財源に充てるため、習志野市公共施設等再生整備基金(以下「基金」という。)を設置する。

(定義)

第2条 この条例において「公共施設等」とは、公用又は公共用に供する不動産及び動産をいう。

(積立て)

第3条 基金として積み立てる額は、毎年度1億円に加え、基金への積立てを主旨とした公共施設等の再生整備に係る寄附金及び一般会計における不動産売払収入額のうち、一般会計歳入歳出予算に定める額とする。

### 効果等

○公共施設再生に係る基金に毎年積立てるルールができた。

○廃止された従前の基金統合の約10億9千万円に加え、不動産売払収入等の積立てにより平成25年度決算額は約65億円となった。